

市のDX事業、特区事業の取組状況について





なぜDXやデジタル田園健康特区に着手したのか



悪循環

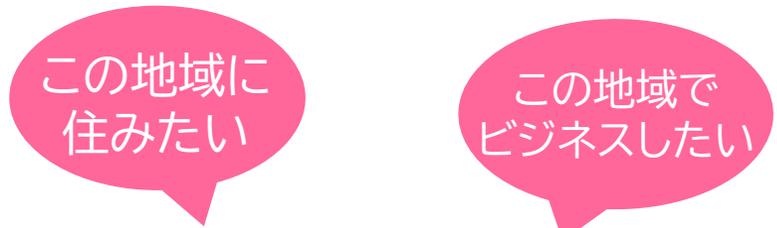
好循環



省力化・
効率化



地域の
利便向上



人手の不足(例)

サービスの衰退(例)

人手不足の解消(例)

人手不足の解消(例)

サービスの発展(例)

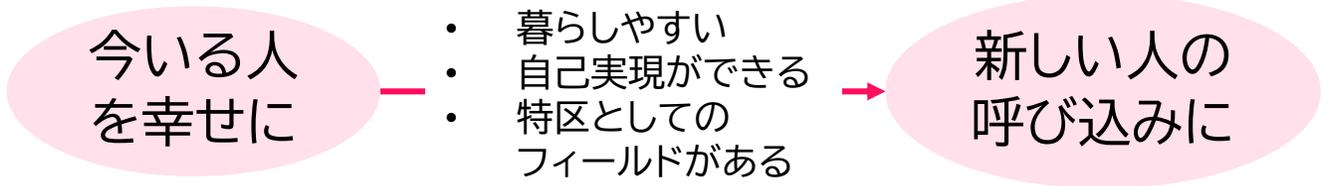
- 人を雇いたくても働き手がない
- 区長のなり手がない
- 消防のなり手がない

- 店舗が撤退
- サービスが縮小

- 人がいなくても業務が回るようにする
- 少ない人手でも区の作業ができるようにする

- 働き手を呼び込む
- 地域の担い手を呼び込む

- 新しい店舗が出店
- 新しい企業が進出
- サービスが拡充





なぜDXやデジタル田園健康特区に着手したのか

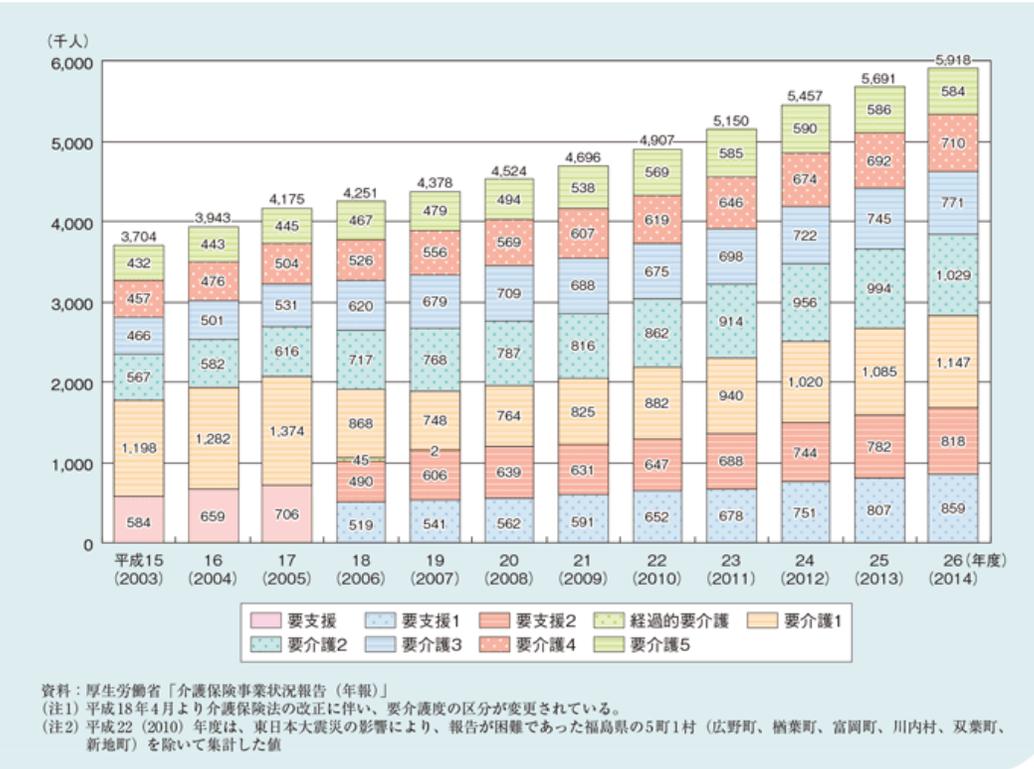
○認知症高齢者数と要介護度別認定者数の推計

65歳以上の認知症高齢者数と有病率の将来推計についてみると、平成24(2012)年は認知症高齢者数が462万人と、65歳以上の高齢者の約7人に1人(有病率15.0%)であったが、37(2025)年には約5人に1人になるとの推計もある(図1-2-11)。

図1-2-11 65歳以上の認知症患者の推定者と推定有病率



図1-2-14 第1号被保険者(65歳以上)の要介護度別認定者数の推移





【前回資料】（参考）協議会規約（抜粋）

（目的）

第2条 協議会は、茅野市におけるデジタル技術やデータを活用したDX(デジタル・トランスフォーメーション)事業の推進及び国家戦略特区として取り組む事業への協力により、茅野市DX基本構想が目指す「たくましく やさしい しなやかな交流拠点CHINO」の実現を図り、もって便利で心豊かなまちづくりに寄与することを目的とする。

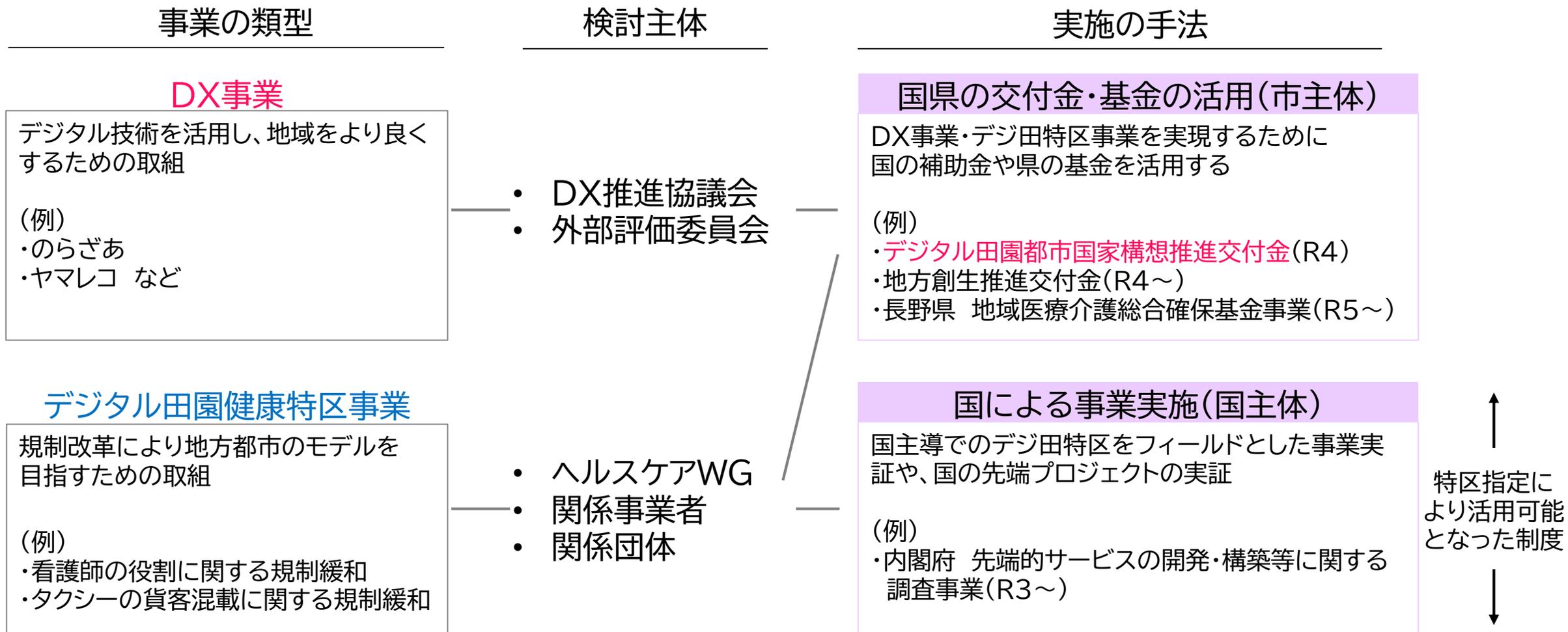
（事業）

第3条 協議会は、前条の目的を達成するため、次の活動を行う。

- (1)市のDX事業及びこれに関連する事業(以下「DX事業等」という。)の企画及び運営に関すること
- (2)市に対するDX事業等の提案に関すること
- (3)DX事業等における課題の把握及び改善に関すること
- (4)DX基本計画の策定に関すること
- (5)市のDXに関する調査研究に関すること
- (6)その他、協議会構成員が必要と認めること



DX事業、デジ田特区事業の立て付け





デジタル田園都市国家構想推進交付金事業 全体像

交付金事業

イメージ図

A) 行政関連サービス群

(データ連携基盤、コミュニケーションポータル、オープンデータ基盤、セキュアDB)

- A-1) データ連携基盤、コミュニケーションポータル（茅野市どっとネット）、オープンデータ基盤（茅野市オープンデータカタログサイト） ※3/6公開予定
- A-2) セキュアDB ※構築済

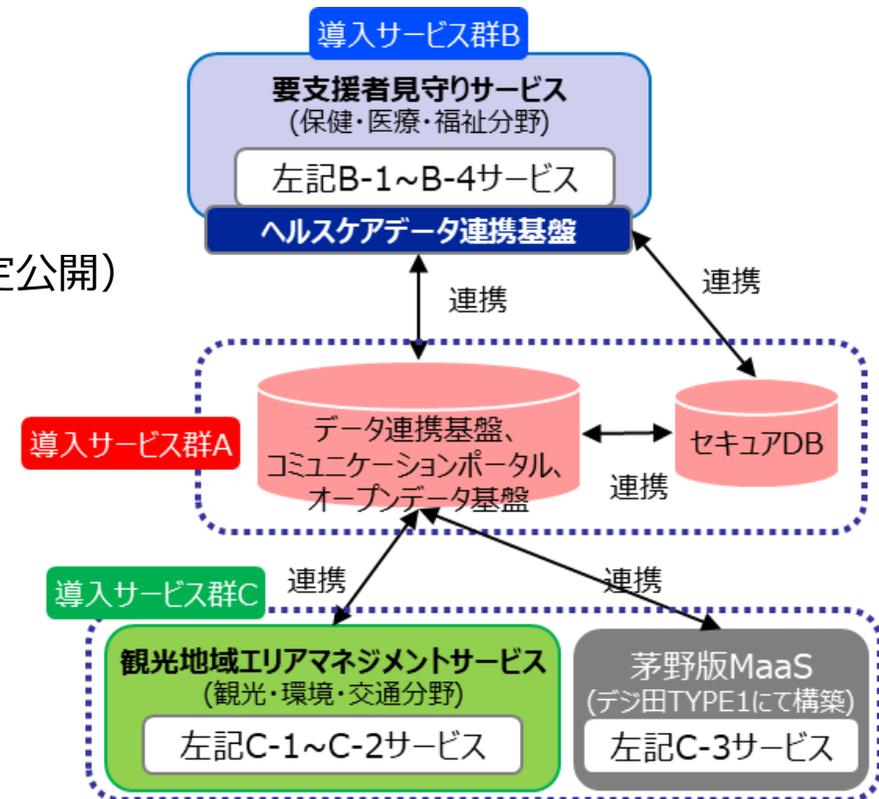
B) 要支援者見守りサービス群（保健・医療・福祉分野）

- B-1) PHR閲覧アプリ(ちのカル+ヘルスケアデータ連携基盤) ※3/20利用開始（限定公開）
- B-2) 家族・医療従事者向け見守りアプリ(やすらぎの丘スマート居室化) ※構築済み
- B-3) 在宅ケアにおけるセキュアな多職種コミュニケーション端末・アプリ(Mell+) ※システム構築済み。運用は4月以降を予定
- B-4) AIケアマネジメント支援アプリ ※3/末導入予定

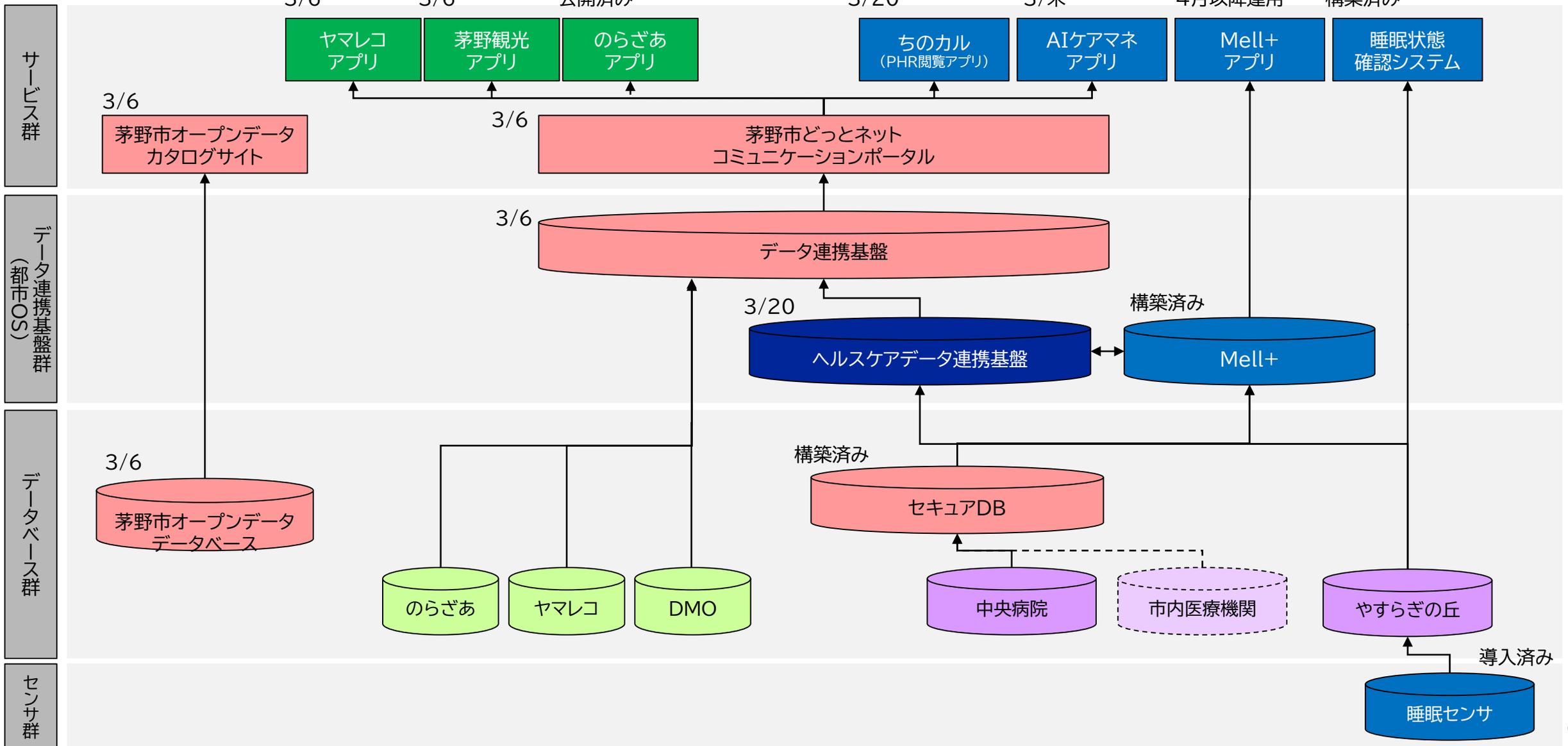
C) 観光地域（DMO）エリアマネジメントサービス群

(観光・環境・交通分野)

- C-1) 自然保全×登山客見守りアプリ(ヤマレコ) ※3/6公開予定
- C-2) 茅野観光アプリ ※3/6公開に向け作業中
- C-3) 茅野版MaaS（のらざあ） ※データ連携基盤との接続については調整中



デジタル田園都市国家構想推進交付金事業 システム全体像

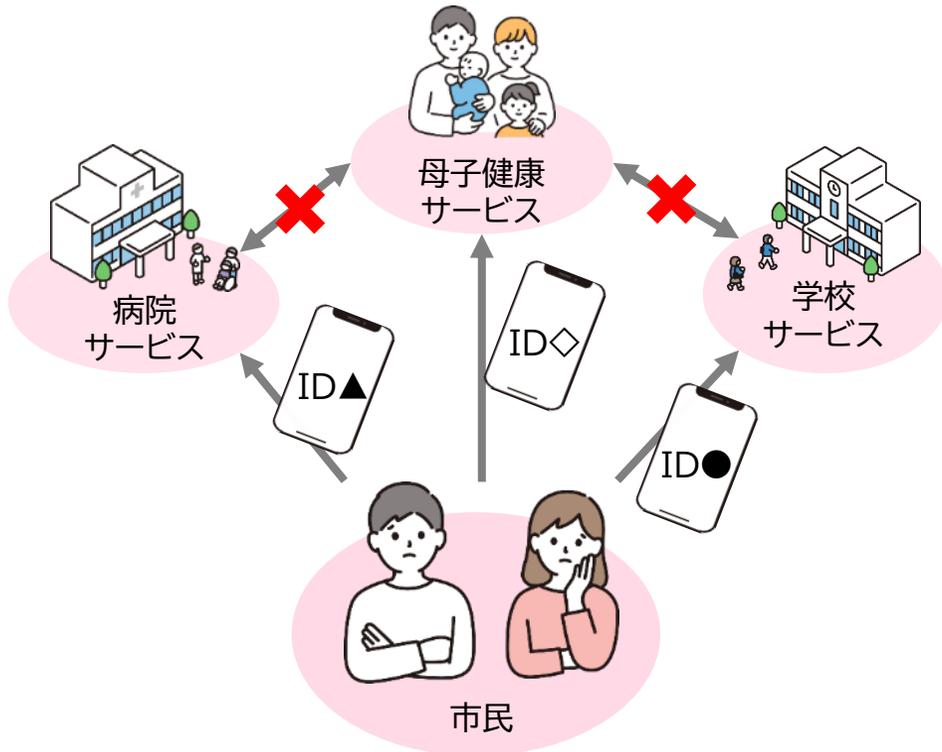


DXの推進によりこれから目指していききたいこと(R5以降の方向性)



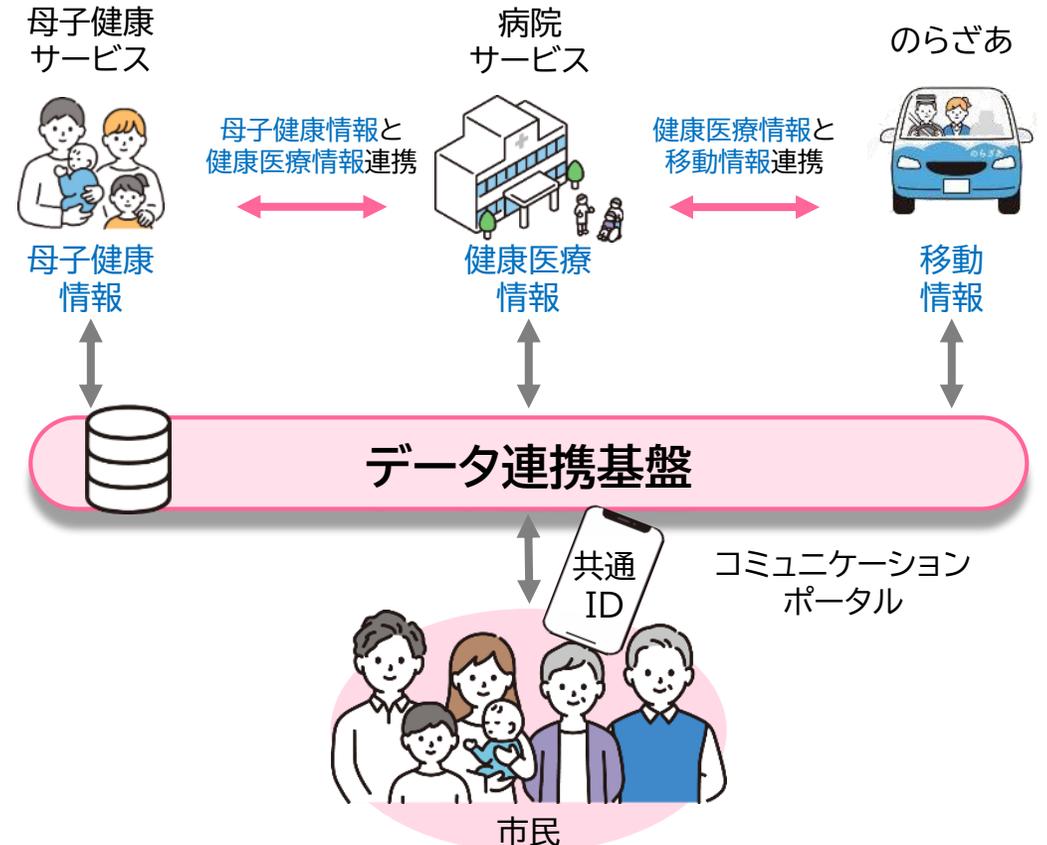
これまで

利用者のIDがばらばら
サービス間でのデータ利用ができない



これから

共通のIDで利用可能
サービス間でのデータ利用が可能





DX事業・特区事業の取組状況、今後の方向性(イメージ)

医療・福祉・子育て

<p>検討中 在宅医療領域 タスクシフト推進</p>  <p>在宅医療関係者の 役割の見直し</p>	<p>※4月以降運用開始 コミュニケーション ツール導入</p>  <p>在宅医療関係者の 連携促進</p>	<p>※構築済み 施設のケア 環境高度化</p>  <p>老健施設の スマート居室化</p>	<p>※3/20公開予定 ちのカル</p>  <p>健康医療情報 の蓄積・閲覧</p>	<p>実装済み 保護者との 連絡の電子化</p>  <p>体調報告・ お便りの電子化</p>	<p>R5～ 電子母子 健康手帳</p>  <p>母子の状態に 合わせた情報発信</p>
---	---	---	---	---	---

交通

<p>実装済み AI乗合オンデマンド交通 のらざあ</p>  <p>自由な移動の 実現</p>	<p>検討中 医薬品等の 効率的配送</p>  <p>タクシーによる 医薬品の貨客 混載運送</p>	<p>検討中 シニアカー 増速</p>  <p>別荘地での 移動手段の確保</p>
--	---	--

都市OS(データ連携基盤) ※3/6公開予定

市民サービスの入口



コミュニティ

<p>R5～ 回覧板の 電子化</p>  <p>モデル地区に よる実証実験</p>	<p>検討予定 コミュニケーション ツール</p>  <p>区・自治会役員 の負担軽減など</p>
--	--

観光・商業

<p>R5～ 情報発信・ 地域ポイント</p>  <p>ポイント制導入 による顧客の 獲得・管理</p>	<p>※3/6公開予定 ヤマレコ</p>  <p>登山情報の 共有</p>	<p>R5～ バス・ローケー ションシステム</p>  <p>ハイランドシャトル による実証実験</p>
---	--	---

※はデジタル田園都市国家構想推進交付金を活用



これから目指していききたいこと(R5以降の方向性)

<u>構築サービスの 考え方</u>	<u>サービス領域</u>	<u>具体的事業</u>	<u>財源</u>
1. DX	① コミュニティ課題への対応 (区行政の負担軽減)	<ul style="list-style-type: none">・ コミュニティサービス (回覧板電子化等)・ 市民意見の収集 (decidim、アイデアボックス等)	<ul style="list-style-type: none">・ 推進交付金・ 推進交付金
	② 母子にやさしいDX (母子の見守りなど)	<ul style="list-style-type: none">・ 夜間オンライン小児相談・ 母子健康手帳電子化	<ul style="list-style-type: none">・ 実証調査業務・ 実証調査業務
2. デジタル 田園健康特区	③ まち全体でヘルスケア (まち全体で病院機能)	<ul style="list-style-type: none">・ ちのカル機能拡張・ チャット薬剤指導・ 薬剤ストック	<ul style="list-style-type: none">・ 推進交付金・ —・ 実証調査業務